

説明板で綴る、源氏物語の世界

源氏物語

ゆかりの地



Genji Monogatari Yukari-no-chi
GUIDE MAP



源氏物語 ゆかりの地を めぐる

説明板で綴る、源氏物語の世界

平安時代中期、紫式部によって著された『源氏物語』は、千年の時を越え、色あせることなく今日まで多くの人々に読み伝えられ、わが国の文化や芸術など、様々な分野において大きな影響を与え続けています。また、源氏物語は数多く翻訳され、日本の古典文学を代表する作品として世界の人々にも広く知られています。

平成二〇〇八年二月一日は、源氏物語が世に流布していたことが分かる日から数えて、ちょうど千年の節目の日を迎えます。このリーフレットはこの記念すべき年を迎えるに当たり、源氏物語の中心舞台である京都市内四〇箇所に、平成一九年度に設置しました、源氏物語ゆかりの地の説明板を紹介するために作成したものです。

これら京都市内に点在する源氏物語ゆかりの地を訪ね、設置されている説明板から、紫式部が生きていた時代に思いを馳せ、源氏物語の世界に親しんでみてはいかがでしょうか。

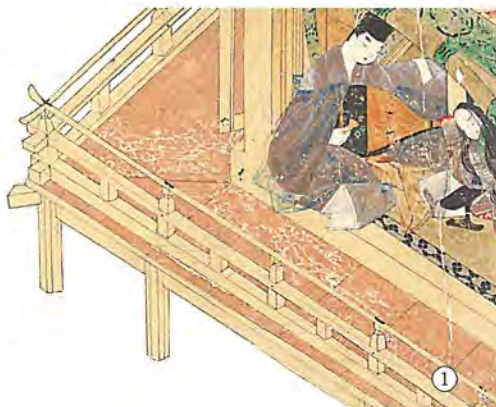


大極殿遺跡の石碑
近年の発掘調査成果で、大極殿の北にあった昭慶門の西回廊上に建っていることが判明した

源氏物語とゆかりの地

『源氏物語』がいつ完成したかは不明ですが、紫式部の『紫式部日記』に、西暦一〇〇八年二月一日、一条天皇と中宮彰子(しようし)との間に生まれた敦成(あつひら)親王の五〇日(いか)の祝いが、平安京の北東にあった藤原道長の邸宅である土御門殿で催されました。

その席で、紫式部の居る几帳に藤原公任(きんとう)が訪れ、「失礼ですが、このあたりに若紫はいらっしゃいますか」との問い掛けに、紫式部は「源



氏に似ていそうな人もいないのに、紫上がここにおられるはずがないわ」と聞き流したと書いてあります。この記述から、そのときには『源氏物語』が世に出ていることが分かることも、二〇〇八年はそれから数えて千年目を迎えることになりました。

源氏物語は、フィクションでありながら、数多くの「源氏物語ゆかりの地」が存在します。その多くは歴史的根拠の乏しいものや、史実にそぐわないものも含まれています。しかし、近年の平安京跡などの遺跡発掘調査の成果から、平安時代に関する多くの情報がもたらされ、これまでの史料を含め、平安時代の京都の姿をある程度復元できるようになりました。そのような成果を含めて、源氏物語ゆかりの地を選定し、北は左京区の鞍馬寺から、南は西京区の大原野神社までの範囲に説明板を設置いたしました。ただし、顕彰施設が整った著名な杜社などには設置しておりません。

源氏物語ゆかりの地 説明板作成について

「源氏物語ゆかりの地」説明板設置における、説明文の作成は同志社女子大学の馳谷 寿教授の御協力を仰ぎ、また校正は上京歴史探訪館の山中恵美子副館長ほか多くの方々の協力を得ました。

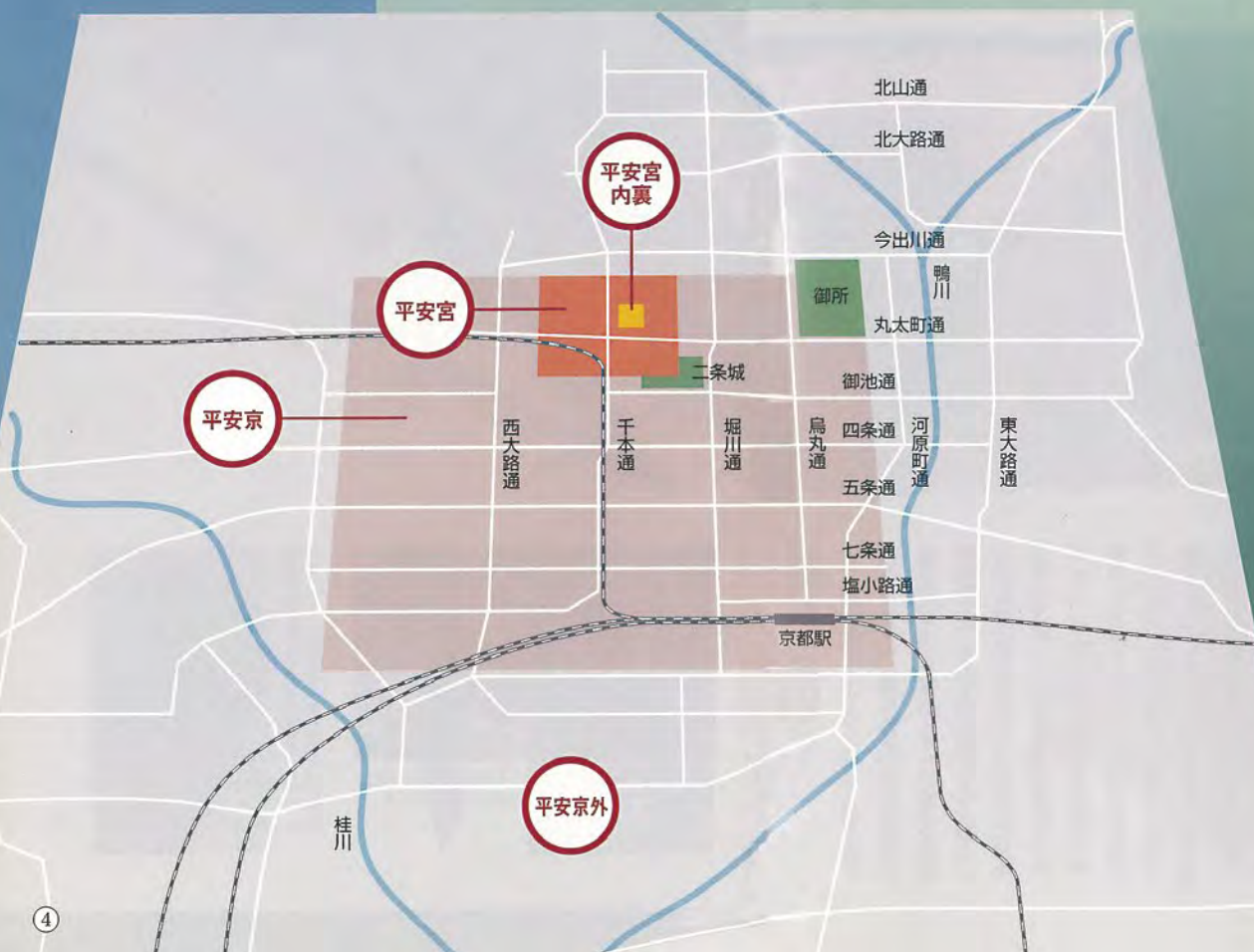
説明板の大きいサイズのものには、英語・韓国語・中国語の翻訳文を、小さいサイズの説明板には、要約した翻訳文を掲載しています。また、説明板及びリーフレットには、京都市立芸術大学附属図書館芸術資料館の協力と許可を受け、同館所蔵の田中親美模写「源氏物語絵巻」を部分掲載し、さらに(財)京都市埋蔵文化財研究所の協力で、発掘調査現場や平安時代の出土遺物などの写真も掲載しています。そのほか、遺跡を分かりやすく理解していたくために、遺跡の位置や範囲を記載した地図のほか、NHK・大成建設提供のCG復原画像や梶川敏夫作

画の遺跡復原イラストも併せて掲載しています。

なお、説明板は、京都市教育委員会や京都市教育委員会、公立学校、京都市緑地管理課のほか一般市民の御協力を得て、学校敷地や公園のほか、社寺境内や会社、宿泊施設を含む個人の敷地などに設置いたしました。説明板設置に、御理解と御協力を賜りました多くの機関や関係者の皆様方には心より厚く感謝申し上げます。

目次

| | |
|--------------------|----|
| 源氏物語ゆかりの地をめぐる | 1 |
| 源氏物語ゆかりの地説明板作成について | 3 |
| 平安宮内裏 | 5 |
| 平安宮 | 9 |
| 平安京 | 13 |
| 平安京外 | 17 |
| 説明板設置場所一覧 | 22 |



1 平安宮内裏跡

内裏は、七九四年の平安遷都で最初に造営された天皇や后たちの居住空間で、「源氏物語」の中心舞台であった。村上天皇の天徳四年(九六〇)に初めて焼亡、その後何回も焼失再建を繰り返し、安貞元年(一二二七)の焼失後は再建されなかった。



2 平安宮内裏承香殿跡

内裏の後宮の一つであるがこの建物の一画では、天皇の書物を保管し、和歌の編纂(編纂)も行われた。

3 平安宮内裏藏人町屋跡

天皇の側近である藏人が、天皇の命令を伝え、天皇に関する事務や私生活についての仕事を行った所。

4 史跡平安宮跡内裏跡
(内郭回廊跡)

内裏は、内外二重の郭で厳重に囲まれ、外郭は築地塙(いじべい)、内郭は築地を挟んで内と外を衛士(えし)らが警護できる複廊構造で、下立売通り沿いの二箇所で凝灰岩(ぎょうかいがん)の基礎石が見つかり、史跡指定して保存されている。

5 平安宮内裏紫宸殿跡

内裏の正殿で公的な行事の場。天皇が出御して国家の重要な儀式が行われ、南庭には桜と橘の木が植えられていた。

6 平安宮内裏凝華舎(梅壺)跡
と飛香舎(藤壺)跡

内裏の後宮の一つで、それぞれ庭に梅と藤を植えていたので梅壺・藤壺とも呼ばれた。「源氏物語」の藤壺の女御は、光源氏の母に似た憧れの女性で、その後光源氏との逢瀬(おうせ)恋愛関係で冷泉帝が生まれることになる。

7 平安宮内裏弘徽殿跡

内裏の後宮の一つで、後には天皇の住まいにもなった。「源氏物語」では弘徽殿女御が住み、またその妹の朧月夜(おぼろつきよ)も住んだ。朧月夜と光源氏との親密な関係が、光源氏の須磨(今の兵庫県)への隠棲の原因となった。

8 平安宮内裏清涼殿跡

天皇の居所で、南側には公的施設、北側には天皇のプライベートな施設があった。

9 平安宮内裏淑景舎(桐壺)跡

内裏の後宮の一つで、庭にある桐の木から桐壺とも呼ばれた。「源氏物語」では光源氏の母である桐壺更衣の居所であるが、天皇の居場所から遠く離れており、后としての身分の低さを表わしている。幼少の光源氏もここに住み、後には娘の明石姫君も住んだ。

10 平安宮内裏昭陽舎(梨壺)跡

内裏の後宮の一つで、庭にある梨の木から梨壺とも呼ばれた。この建物の一画で「後撰和歌集」が編纂(編纂)された。後に東宮(皇太子)御所として使用された。

11 平安宮内裏温明殿
(内侍所)跡

内侍の候所で、三種の神器(天皇の権威のしるし)の一つである神鏡を安置した賢所(かしこひのゝ)があったことから、全体を賢所または内侍所と呼んだ。「源氏物語」『紅葉賀』では、源典侍(げんないしのすけ)に心をとめた光源氏が頭中将

(とうのちゆうじよ)と騒動を起こす舞台となっている。

12 平安宮内裏東限と建春門跡

ここは内裏の東端で、外郭東面に設けられた建春門があり、左衛門陣(さえもん)のじんととも呼ばれた。

13 平安宮内裏南限と建礼門跡

内裏外側にある正門で、外郭門の中では最大、門前では様々な行事が行われた。

14 平安宮内裏宜陽殿跡

御物(天皇の私物)を納める納殿(おさめ)のしるしとして、「源氏物語」『若菜上』では兵部卿宮が弾いた琴は宜陽殿の御物といふ。当時の一級品が納められていた。また、役人の部屋のほかに会議を行う部屋もあった。



平安宮内裏跡周辺への交通

- JR京都駅から
市バス206号で千本丸太町または千本出水下車
- JR二条駅・地下鉄東西線二条駅から
北へ徒歩20分。市バス6・46・55・201・206号で千本丸太町または千本出水下車
- 三条京阪駅から
市バス10号で丸太町智恵光院、15号で千本丸太町下車
- 京阪神宮丸太町駅から
市バス202・204号で丸太町智恵光院下車
- 阪急四条大宮駅から
市バス6・46・55・201・206号で千本丸太町または千本出水下車



平安宮「大内裏」

平安京の北中央にある平安宮は、南北約二・四km、東西約二・二kmあり、周囲を隴(ほり)「濠」と堀地(ぜんち)「犬走(いぬばしり)」及び高い築地塀(いじべい)で囲まれ、正門である朱雀門ほか一四の門が設けられていました。

平安宮の中央部にある朝堂院(八省院)の正殿は、平安宮内最大の建物である大極殿で、中央には玉座(ぎょくざ)である高御座(たかみくら)が置かれていました。

『源氏物語』「賢木(さかき)の巻」では、朱雀帝が齋宮(さいぐう)・後の秋好中宮の伊勢下向に際し、この大極殿において「別れの御櫛」を挿す描写があります。

大極殿は、安元三年(二七七)の大火後は再建されず、大極殿での儀式は内裏の紫宸殿(しんんでん)で行われるようになりました。

朝堂院の西には饗宴施設である豊楽院(ぶらくいん)、北東には天皇の居所である内裏があり、また、



平安宮[大内裏]復原イラスト(南から)



二官八省と呼ばれる国家政治を掌る役所(官衙)・かんがが建ち並んでいました。北方には国の財政を賄う多くの蔵を設けた大蔵省のほか、内裏の西方には宴松原(えんのまつばら)と呼ぶ空地が広がっていました。

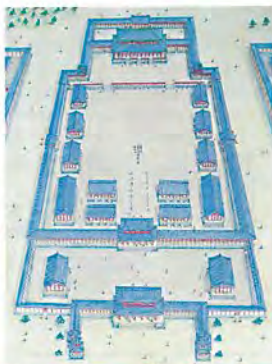
豊楽殿復原イラスト(北西から)



豊楽殿跡出土遺物(重要文化財)



朝堂院(八省院)復原イラスト(南から)



平安時代の櫛(くし)
平安京跡から出土



大極殿の朝賀の復原イラスト(南東から)
正月元旦に天皇が大極殿に御して百官から祝賀を受ける朝賀の儀式

15 平安宮大藏省跡・大宿直跡
 国の財政を賄う多くの蔵があったのが大藏省。内裏を警護する役人の詰所が大宿直。

16 平安宮朝堂院大極殿跡

平安宮の朱雀門を入ると、正面に八省院とも呼ぶ朝堂院がある。その正門の応天門を入ると左右に朝集堂があり、さらに会昌門を入ると所属する役人の座のある十二の堂が左右対称に並び建っていた。その奥には身分差を示す龍尾壇(りゅうびだん)があり、その壇上にあつたのが大

極殿である。創建当初は、東西二間、南北四間の二階建物と推定され、縁柱瓦りよくゆうがわらで縁取られた屋根の大棟両端を鷲尾(しび)で飾る大規模な建物で、ここに天皇が御して、様々な国家行事が行われた。大極殿跡の発掘では、朝堂院の北門である昭慶門の東側回廊跡の凝灰岩の基礎石などが検出され、その成果から、内野児童公園内に一八九五年に建てられた「大極殿遺蹟の碑」は、昭慶門西側回廊跡上に建っていることが判明している。

17 平安宮西限と左馬寮跡・藻壁門跡

平安宮十四門の一つで、西側の南がら二番目の門。左馬寮は宮中の馬の飼育・調教や馬具、及び諸国の牧場を管理した役所。



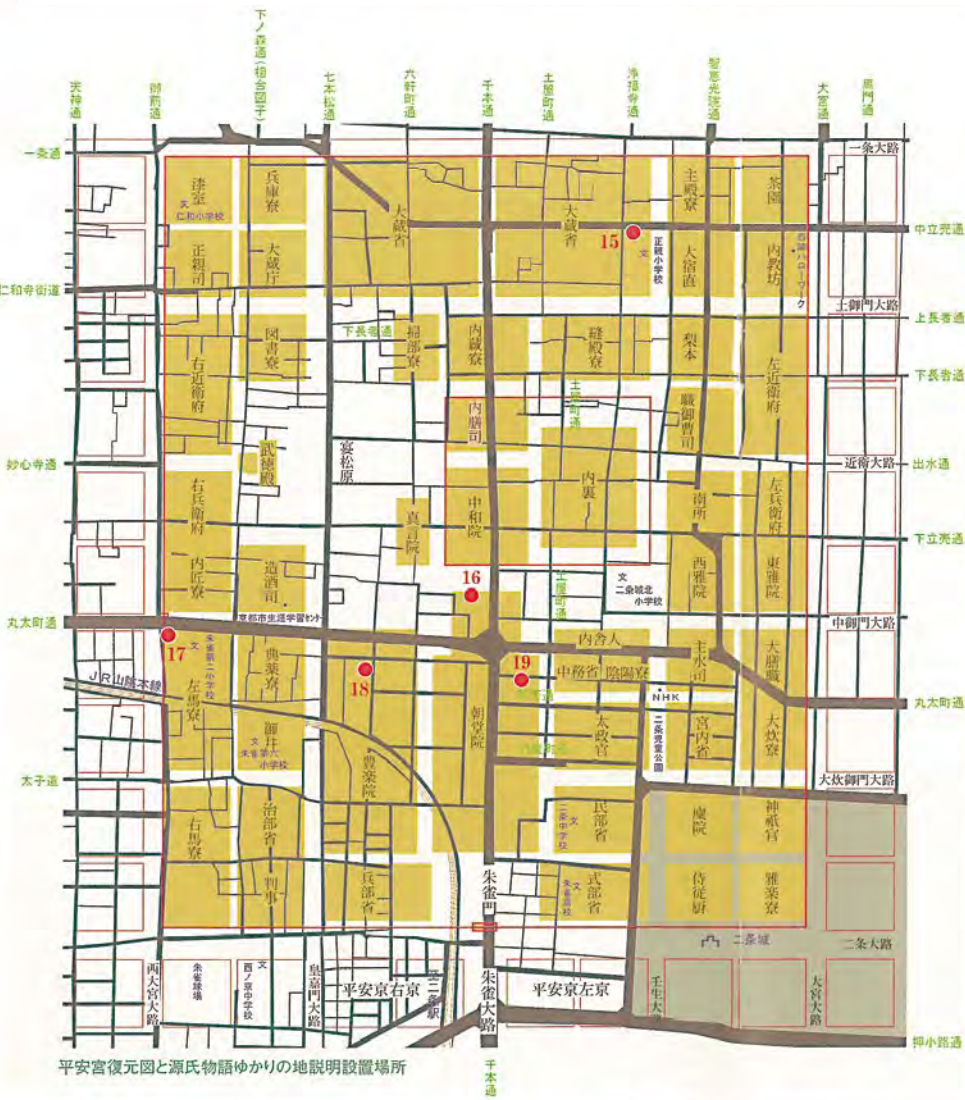
18 史跡平安宮跡 豊楽院跡 豊楽殿跡

天皇が御して国家的な饗宴が行われた場所。発掘調査で二棟の建物跡や両堂をつなぐ廊跡が見つかっている。



19 平安宮朝堂院昌福堂跡

朝堂院は現在の国会議事堂に相当する施設で、昌福堂には政府高官の席が設けられていた。



平安宮復元図と源氏物語ゆかりの地説明設置場所

平安宮跡周辺への交通

- JR京都駅から
市バス206号で千本丸太町または千本出水上車
- JR二条駅・地下鉄東西線二条駅から
北へ徒歩15分。市バス6・46・55・201・206号で千本丸太町または千本出水上車
- 三条京阪駅から
市バス10号で丸太町留恵光院、15号で千本丸太町下車
- 京阪神宮丸太町駅から
市バス202・204号で丸太町留恵光院下車
- 阪急四条大宮駅から
市バス6・46・55・201・206号で千本丸太町または千本出水上車



20 平安京一条大路跡

平安京北端の東西道路で、道幅は約30m。「源氏物語」「葵」には、一条大路を通る光源氏を見ようと、六条御息所と源氏の正妻葵上の一行が、見物場所をめぐる競争(牛車の止め場所を争う)を描く。



● JR京都駅から市バス9号、三条京阪駅から市バス12号で一条戻り橋下車。堀川通から一条通を西へ徒歩約5分。

24 齋宮邸跡

齋宮は天皇に代わって伊勢神宮に仕えた未婚の内親王または女王のごことで、龜の甲羅(こうら)を焼いて占う(定ぼくじょう)により選ばれた。この制度は七世紀後半から一四世紀前半まで続いた。西京高校内の発掘で平安時代の建物跡やの齋宮と書いた墨書土器が出土、九〜十世紀代の京内の齋宮邸跡と判明した。



● 地下鉄東西線西大路御池駅下車。京福嵐山線西大路二条駅下車北へ徒歩約10分。JR京都駅から市バス26・205号、四条烏丸から91・203号で西大路御池下車。西京高校正門前にあり。

21 一条院跡「一条院内裏跡」

一条天皇の里内裏(さしだいり)で、紫式部が「紫式部日記」に書いている内裏は主にこの一条院内裏のことである。



● JR京都駅から市バス9号、三条京阪駅から市バス12号で一条戻り橋下車。堀川通から一条通を南西へ徒歩約8分。名和児童公園の西側にあり。

25 朱雀院跡

平安京内最大を誇る累代の後院(上皇の御所)で、「源氏物語」に、朱雀院で光源氏の祖父に当たる一院(いちいん)の五十歳の祝典である「紅葉賀(もみじのが)」が華やかに催された。



● 阪急西院駅または京福嵐山線西院駅から西へ徒歩15分。JR京都駅から市バス26号、四條大宮から市バス3・8・11・13・26・28・29・67・69・71・91・203号で四条中新道下車。

22 二条院候補地「陽成院跡」

南北二五mの陽成院と呼ばれた邸宅跡。光源氏の住まいである二条院は、この邸宅をモデルにしているという説がある。



● 地下鉄東西線二条城前駅から北東へ徒歩約10分。JR京都駅から市バス9・50号、三条京阪駅から市バス12号で二条城前下車。東へ約5分。夷川児童公園の南側にあり。

26 西鴻臚館跡

外国使節を接待・宿泊させる迎賓館(げいひんかん)で、「源氏物語」に「桐壺」では、桐壺帝が鴻臚館に滞在中の高麗(こま)朝鮮半島北部にあった渤海国(ぼっかいこく)の人相見(顔を)見せて将来を占う(うら)んのもとへ、素性を隠して光源氏を遣わし、占ってもらった話がある。



● JR京都駅から市バス205・208号で七条十本下車。京都市中央卸売市場第一市場南側堀沿いにあり。

23 大学寮跡

現在の国立大学に相当する施設。「源氏物語」に「少女」で、光源氏は、わが子の夕霧の位を六位に下げて大学寮へ通わせた。



● JR二条駅地下鉄東西線二条駅 から東へ徒歩7分。四條大宮駅から市バス6・46・55・69・201・206号で二条駅前下車。東へ徒歩約5分。中京中学校南側のフェンス沿いにあり。

27 羅城門跡

平安京のメインストリート朱雀大路南端に設けられた、都の表玄関にあたる大規模な門。



● JR京都駅から市バス16・78号、近鉄東寺駅から市バス202・208号で羅城門下車。花園児童公園内にあり。

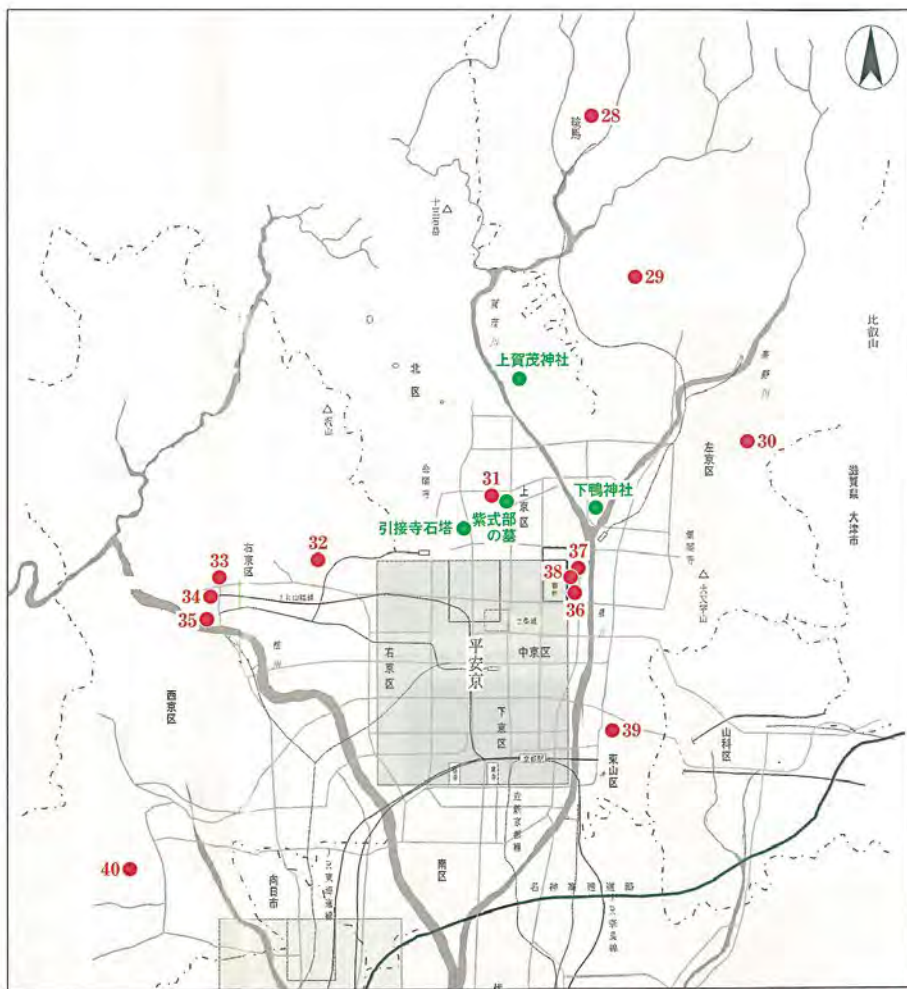
羅城門復原イラスト(南東から)

平安京外

源氏物語は、平安京を離れた郊外や、宇治、奈良、須磨、明石など広範なエリアが舞台となっています。ここでは、市内の平安京跡以外のゆかりの地について三箇所を選定し、紹介しています。

平安京北方では、「若紫」巻で、光源氏が後の紫の上と運命的な出会いをする「北山のながし寺」候補地として、鞍馬寺と大雲寺旧境内(北山病院敷地)を、また、宇治十帖に登場する横川僧都に關

係して、比叡山への登り口である雲母坂(きららぎか、また「賢木」巻に登場し、近年の発掘で遺構が検出された雲林院跡(現、雲林院)のほか、平安京西方では、「夕顔」の題材とされる具平(ともひら)親王と大顔の舞台である遍照寺、源氏のモデル源融(みなもと)のおる(の)別業(別荘)を寺にした清涼寺、「賢木」巻の野宮を伝える野宮神社、発掘で平安前期庭園跡が見つかった明石姫君の大堰の邸候補地(嵐山)を選定しています。そのほか、平安京東方の法成寺跡や廬山寺、梨木神社や鳥辺野跡、そして南西の大原野神社にも説明板を設けています。



平安京外の源氏物語ゆかりの地説明板設置場所



右京区磯織の化野で出土した
金銅蓋付の甕骨器
右上はその蓋
京都市指定文化財土世紀



平安時代の祭祀遺物
西京区で大量に出土した須恵器(壺)

28 鞍馬寺 北山のながし寺(候補地)

「源氏物語」「若紫」で、光源氏が病氣治療で行った北山「ながし寺」の推定地。光源氏は、藤壺の女御に似た幼い若紫(後の紫上)と、ここで運命的な出会いをする。他に大雲寺も候補地である。



●叡山電鉄鞍馬線鞍馬駅から徒歩15分(鞍馬寺の山門からなら折れの山道を徒歩約5分)由岐神社の右脇道にあり。愛山費2000円が必要)

29 大雲寺旧境内 北山のながし寺(候補地)

「源氏物語」「若紫」で、光源氏が病氣治療で行った北山「ながし寺」の推定地。光源氏は、藤壺の女御に似た幼い若紫(後の紫上)と、ここで運命的な出会いをする。他に鞍馬寺も候補地である。



●四条河原町から京都バス21号または地下鉄烏丸線国際会館駅から京都バス24号で岩倉実相院下車。徒歩約5分。北山病院敷地西側山治にあり。

32 遍照寺境内

紫式部が二十歳の頃、具平(ともひら)親王と大顔(おおがも)が遍照寺で月見を楽しんでる最中、大顔が消え入るように急死した。この事件は「源氏物語」夕顔の題材になったといわれる。



●三条京阪駅、四条烏丸から市バス11号で広沢御所(内町)下車。北へ徒歩約5分。三条京阪駅からは市バス59号で広沢池・佛大広沢校前下車でもアクセス可能。本堂前にあり。

33 棲霞観跡「清涼寺」

光源氏のモデルといわれる、嵯峨天皇の皇子源融(みなもとのとおる)が九世紀後半に嵯峨に営んだ山荘跡で現在は清涼寺。「源氏物語」松風で光源氏が造営した「嵯峨の御堂」は、棲霞観の場所と一致する。



●JR京都駅から市バス28号、四条烏丸から市バス91号で嵯峨釈迦堂前下車。丸太町通からは市バス93号、三条京阪駅から11号で嵯峨小学校前下車。北へ徒歩約5分。清涼寺境内阿弥陀堂前にあり。

30 雲母坂

都から比叡山(延暦寺への登り口)で、主要ルートの一つであった。「源氏物語」には比叡山に住む横川僧都(よかわのそうず)が登場する。



●JR京都駅から市バス5号、地下鉄烏丸線松ヶ崎駅から北8号で修学院道下車。東へ徒歩約20分。四条烏丸から市バス31・65号でもアクセス可能。叡山電鉄修学院駅下車。東へ徒歩約25分。関西メジャーハウス入口北側にあり。

31 野宮「野宮神社」

天皇の代わりに伊勢神宮の天照大神に仕える齋宮(皇女・女王)が、伊勢下向する前の約一年間、潔斎生活をおくる場所。「源氏物語」「賢木」で、光源氏が野宮へ六条御息所を訪ねる場面がある。



●JR山陰線嵯峨嵐山駅から西へ徒歩10分。京福嵐山線嵐山駅から徒歩約15分。JR京都駅から市バス28号、三条京阪駅から市バス11号、京阪神宮丸太町駅または地下鉄烏丸線丸太町駅から93号で野々宮下車。西へ徒歩約5分。野宮神社境内本殿前にあり。

31 雲林院

平安時代前期(九〜十世紀)に造られた淳和天皇の離宮(紫野院)は、後に雲林院となる。「源氏物語」「賢木」に、光源氏が桐壺更衣の兄律師(兄で位の高い僧)のいる雲林院に籠る話がある。



●JR京都駅から市バス205・206号で大徳寺前下車。京阪出町柳駅から市バス1号、三条京阪駅から市バス12号で大徳寺前下車。雲林院門前にあり。ほかに東側のパークシティ北大路マンション北西の壁にも説明板がある。

35 大堰の邸候補地

発掘で平安時代前期の庭跡が見つかったいる場所で、「源氏物語」松風で明石上が母の尼君と娘と共に住んだ「大堰の邸」の候補地の一つ。



●京福嵐山線嵐山駅から徒歩10分。三条京阪駅から市バス11号、京阪神宮丸太町駅または地下鉄烏丸線丸太町駅から市バス93号嵐山下車。西へ徒歩約5分。阪急嵐山線嵐山駅下車。渡月橋を渡り西へ徒歩約10分。京都年金基金センター「らんざん」西側にあり。

36 法成寺跡

十二世紀に、「源氏物語」の作者である紫式部の後ろ盾であった藤原道長が造営した大規模な寺院跡。



●JR京都駅から市バス4・17・205号、三条京阪駅から市バス37・59号で荒神口下車。西へ徒歩約3分。鴨沂高校北側グラウンドの南端にあり。

40 大原野神社

平安時代を代表する貴族である藤原氏が、その氏神を祀る神社。紫式部も訪れている。



●洛西バスターミナルから市バス臨西2号、阪急桂駅西口から臨西2号で南春日町下車。JR向日町または阪急向日駅から阪急バス65号で南春日町下車。神社の鳥居右側にあり。

37 廬山寺

文献から紫式部邸跡と推定され、「源氏物語」や「紫式部日記」の執筆がこざされたとする説がある。



●JR京都駅から市バス4・17・205号、三条京阪駅から市バス37・59号で府立医大病院前下車。西へ徒歩約5分。廬山寺玄関前にあり。

源氏物語 ゆかりの地 ◎平安京外の説明板

38 梨木神社[中川の家候補地]

平安京東端(東京極大路付近)の二条以北にあったとされる中川は、「源氏物語」で光源氏が花散里(はなちり)に逢いでかけた場所。



●JR京都駅から市バス4・17・205号、三条京阪駅から市バス37・59号で府立医大病院前下車。西へ徒歩約5分。

39 鳥辺野[葬送の地]

都で死んだ人を葬る場所の一つで、「源氏物語」では急死した夕顔のほか葵上や紫上もここで荼毘(たび)火葬に付されている。



●京阪七条駅から東へ徒歩約10分。JR京都駅から市バス206・208号で東山七条下車。東へ徒歩約3分。伊が202・207号でもアクセス可能。妙法院南側の通称女坂北側にあり。

■「源氏物語ゆかりの地」説明板設置場所一覧

- | | |
|--|--|
| 1 平安宮内裏跡 [源氏物語の中心舞台] 上京区下立売通智恵光院西入丸屋町(上京歴史博物館前) | 21 一条院跡 [一条院内裏跡] 上京区大宮通中立売上る糸屋町(名和児童公園) |
| 2 平安宮内裏凝華舎(梅壺)跡・飛香舎(藤壺)跡 上京区土屋町通出水下る西神明町(民家) | 22 二条院候補地 [陽成院跡] 中京区夷川通小川東入東夷川町(夷川児童公園) |
| 3 平安宮内裏弘徽殿跡 上京区出水通千本東入下る東神明町(民家) | 23 大学寮跡 中京区西ノ京北聖町(京都市立中京中学校) |
| 4 平安宮内裏清涼殿跡 [天皇の居所] 上京区下立売通千本東入田中町(民家) | 24 斎宮邸跡 中京区西ノ京中合町(京都市立西京高校) |
| 5 平安宮内裏承香殿跡 上京区浄福寺通出水下る西入東神明町(民家) | 25 朱雀院跡 中京区壬生花井町(日本写真印刷株式会社) |
| 6 平安宮内裏藏人町屋跡 上京区下立売通千本東入田中町(民家・店舗) | 26 西御膳館跡 下京区朱雀堂ノ口町(京都市中央卸売市場第一市場) |
| 7 史跡平安宮跡内裏跡 [内郭回廊跡] 上京区下立売通千本東入田中町(史跡指定地) | 27 羅城門跡 南区九条通新千本東入唐橋羅城門町(唐橋・花園児童公園) |
| 8 平安宮内裏紫宸殿跡 上京区下立売通浄福寺西入田中町(民家) | 28 鞍馬寺 [北山の「なにかし寺」候補地] 左京区鞍馬本町(鞍馬寺境内、由岐神社横) |
| 9 平安宮内裏淑景舎(桐壺)跡 上京区出水通浄福寺東入田村備前町(民家) | 29 大雲寺旧境内 [北山の「なにかし寺」候補地] 上京区岩倉上殿町 北山病院敷地内(旧大雲寺境内) |
| 10 平安宮内裏昭陽舎(梨壺)跡 上京区浄福寺通出水下る東入田村備前町(ガレージ) | 30 雲母坂 [比叡山延暦寺の横川への上り口] 左京区一乗寺竹ノ内町(関西セミナーハウス敷地) |
| 11 平安宮内裏温明殿跡 [内侍所跡] 上京区下立売通智恵光院西入丸屋町(ガレージ) | 31 雲林院 北区紫野雲林院町(雲林院) |
| 12 平安宮内裏東院と建春門跡 上京区智恵光院通出水下る分銅町(松林寺北門) | 32 遍照寺境内 [夕顔のモデル大顔の舞台] 右京区嵯峨広沢西京町(遍照寺境内) |
| 13 平安宮内裏南院と建礼門跡 上京区浄福寺通下立売下る中務町(京都市立二条城北小学校) | 33 嵯峨親跡 [清涼寺] 右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町(清涼寺境内) |
| 14 平安宮内裏宣陽殿跡 上京区浄福寺通下立売上る下丸屋町(ガレージ) | 34 野宮 [野宮神社] 右京区嵯峨野々宮町(野宮神社境内) |
| 15 平安宮大藏省跡・大宿直跡 上京区中立売通裏門西入多門町(京都市立正観小学校) | 35 大堰の邸候補地 [明石君邸推定地] 右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町(宿泊施設 らんざん) |
| 16 平安宮朝堂院大極殿跡 上京区千本通丸太町上る小山町(内野児童公園) | 36 法成寺跡 [藤原道長建立の寺院跡] 上京区覚神寺通寺町東入覚神町(鴨沂高等学校北側グラウンド南端沿) |
| 17 平安宮西院と左馬寮跡・深壁門跡 中京区西ノ京左馬寮町(京都市立朱雀第二小学校) | 37 廬山寺 [紫式部実家推定地] 上京区寺町通広小路上る北之辺町(廬山寺境内) |
| 18 史跡平安宮跡豊楽院跡 [豊楽殿跡] 中京区聚楽廻西町(史跡指定地) | 38 梨木神社 [中川の家候補地] 上京区寺町通広小路上る染殿町(梨木神社境内) |
| 19 平安宮朝堂院昌福堂跡 上京区千本通丸太町下る東入主税町(民家) | 39 鳥辺野 [葬送の地] 東山区妙法院前御町(皇国廟参道・七条通大宮東入北側) |
| 20 平安京一条大路跡 上京区一条通大宮東入下石橋南半町(民家) | 40 大原野神社 [藤原氏ゆかりの神社] 西京区大原野南春日町(大原野神社) |



賀茂別雷(上賀茂)神社の楼門
[1628年再建、重要文化財] (北区上賀茂本山)



賀茂別雷(上賀茂)神社の立砂と細殿
[持殿は重要文化財]



賀茂御祖(下鴨)神社の楼門
[1628年再建、重要文化財] (左京区下鴨泉川町)



賀茂御祖(下鴨)神社の葵祭の斎王行列



紫式部墓伝承地
(北区堀川北大路下る西側)

源氏物語

ゆかりの地

この度、説明板を設置しました場所のほかにも
京都には源氏物語や紫式部に
ゆかりのある地があります。
ここでは、その一部を紹介しています。



賀茂齋院跡 [現 榎谷七野神社]
[上京区上御霊前通智恵光院東入]



源融の邸宅河原院跡の石柱と胸札
[北から] (下京区五条大橋西詰下る)



引接寺石塔
[至徳3年(1386)刻銘あり、重要文化財]
(上京区慶山寺通千本角)
十重の石塔で高さ約7m、紫式部の供養塔とされ、元は紫野の白毫院にあったとされる。